

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670400355
法人名	医療法人社団ホスピー
事業所名	グループホームちょうろく
所在地	魚津市石垣389番地
自己評価作成日	令和3年12月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年12月23日	評価結果市町村受理日	令和4年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ロコモ体操、アロママッサージ、柔整マッサージを実施し、心と身体の活性化を図ると共に、グルテン・カゼインフリー食を提供し、身体の内側から健康になって頂けるように努めています。また、浦田クリニックより、24時間365日必要時適切な医療を受けることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

腸内環境を整える効果があると言われているグルテン・カゼインフリー食材を用いた食事の提供等による健康管理や、24時間訪問診療が可能なかかりつけ医、同法人の医療系サービスの専門職と連携が図れる体制が整備され、利用者や家族はもちろんの事、働く職員の安心にも繋がっている。新型コロナウイルス感染症の影響で、外出等に制限がある状況においても、日々の暮らしにおいて利用者一人ひとりの力や役割を発揮してもらえるような関わりや支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホームの玄関やステーションに掲げ、常時目に入るようにし、職員一人ひとりが念頭におき業務にあたっています。また、理念に沿えるように、半年毎の目標も設定しています。	月1回のミーティングで理念を確認する機会をつくり、共有を図っている。また、ユニットリーダーが中心となって、半年毎に、理念に基づいた事業所目標を作っている。利用者一人ひとりに得意なことや、役割を發揮して過ごしてもらえるよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では、ホームの様子や行事等をお知らせしています。現在は、感染予防の為、行っていないが、地区行事(敬老会・夏まつり)に参加したり、夏まつり際にはホームに招いたり交流を深めていました。	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっているが、定期的に地域行事に参加したり、地域の中学生や保育園児と交流したりする機会をつくっていた。また、事業所が主催する夏まつり等の行事については、近隣住民一軒一軒に書面を配って案内する等して交流を図っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	14歳の挑戦やボランティアの受け入れを行っています。見学も随時受け付けており、相談も専門のスタッフが対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、自治会長や利用者様、ご家族様に参加して頂いています。参加メンバーから出していたいただいた質問、意見、要望を話し合い、サービスの向上に活かしています。現在は、感染予防の為、行っていないが、報告書を作成し書面での報告を行っている。	2か月に1回、自治会長、利用者代表、家族代表、市役所職員に参加してもらい運営推進会議を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、会議形式ではなく書面での活動報告を行っている。会議での意見や情報から、事業所敷地内の設備やタイルの修繕が図られた事例がある。	運営推進会議に参加していない利用者家族にも、協議事項を周知する手法や取り組みについて、検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議や認定調査の場を活用していた。随時問い合わせや確認等、電話したり出向いたりしています。	運営推進会議や、法人が加入している連絡協議会において、市からの案内等の情報を得ている。ユニット間の利用者交流をより円滑に図るため、事業所設備の運用方法について、市に相談した事例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠しない、ベットの柵をしない、言葉による行動制限をしない等、拘束をしないケアの重要性を理解している。勉強会を行ったり、身体拘束委員を立ち上げたり、職員同士で意識を高めている。	月1回身体拘束廃止委員会を法人全体で開催しており、年度初めにマニュアルを見直し、また、その内容についても共有する勉強会が行われている。毎日のミーティングにおいても、身体拘束に該当する対応を行わないよう、管理者が指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアの中で虐待、若しくはそれにつながる事がないかミーティング等で確認しています。勉強会の場を設け、意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に活用に至ったケースはないものの、今後活用されることも想定されるので、職員全員が理解を深められるよう積極的に研修会に参加していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時及び制度改正時等に御家族様へ管理者・相談員から説明を行っています。質問、不安が無いよう話し合いし合意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には毎月のお便りの送付や電話での近況報告の際、意見や要望をお聞きしています。玄関には、ご意見ボックスを設置しています。面会時等に御家族様としっかりとコミュニケーションを図り、思いを汲み取るように努めています。意見や苦情などは、その日のうちに話し合い業務に反映させています(市から介護相談員を派遣していただいていたが、コロナ禍の為中止しています)。	月1回家族に連絡を取り、意見や要望を確認する機会をつくっている。新型コロナウイルス感染症の影響で面会はガラス越しで行ってもらっていたが、要望に応え、感染対策を講じて居室で行えるよう改善を図っている。利用者からの「外出したい」等の要望は、業務ノートに記録して共有を図り、実現に向けて対応している。	新型コロナウイルス感染症の流行禍でも安心して面会できる手法(オンラインの導入等)について、さらなる検討が図られることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、全職員の意見や提案を記入する用紙を設け、話し合い、どんどん取り入れていくようにしています。また、個別にも聞く機会を設けており、より良い業務内容の提案・改善に努めています。	日々の業務や月1回のミーティングで、職員の意見を確認しており、月1回行われている法人の運営会議等で、提案や相談を行っている。シーツ交換の時間が見直される等の業務改善に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課の際には、職員と面談しています。職員の評価と共に向上心を持ち働けるようアドバイスを行い、より良い環境作りに努めています。積極的に資格を取得するよう、法人内でもサポートしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実績に応じた、法人内外の研修への参加機会を設けています。新人職員には、中堅以上の職員が指導係となり、管理者と確認しながら新人の育成に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業者連絡協議会の研修や県のグループホーム協議会の研修の場で、各事業所との意見交換を行い、サービスの質を向上させていくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設事業所の職員と連携をとり、入居前には必ず本人の生活状況の調査や面談を行っています。事前の見学も可能であり、その際に疑問点や不安の解消に努めています。御家族様との情報の共有も行い、これまでの生活を尊重し、本人の想いを汲み取りながら信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族様の要望や想いを伺っています。日々のケアに反映し、面会時には近況報告を行い、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の生活状況の調査で本人の状態を見極め、家族や相談員と話し合いをしています。本人の状態に適したサービスを受けられるように配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリや作業の中で助け合い、感謝の気持ちを伝えて信頼関係を深めています。本人の得意分野で活躍できるようサポートしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りで近況報告を行い、御家族様の意向も取り入れたケアで本人を支えています。疎遠にならないよう、電話を取り次いだりし、御家族様との時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と連携し、通いなれた美容院へ行ったり、馴染みの場所へ出掛けるなど支援に努めています(現在は、コロナ感染症対策にて外出や面会は制限中である)。	新型コロナウイルス感染症の影響で現在は制限しているが、要望があれば、家族と温泉に出かけたり、自宅で食事をしたりする機会を作っていた。面会についても制限はあるが、1ヵ月毎に広報誌または手紙を送付して、利用者の様子を伝えたり、電話を取り次いだりと家族との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を隣席にしたりしての座席配置にしています。職員がパイプ役となり円滑に交流ができるように努めています。利用者の表情から思いを早めに察知し、利用者同士がトラブルにならないよう注意深く見守りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の次の生活の場所には書面等を通して情報提供をしています。サービスの利用が終了しても、御家族様からの相談があれば応じて、本人や御家族様の不安を最小限にとどめています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日々の様子や会話の中から、本人の思いを聞きとり記録し、スタッフ間で情報共有をしています。意思疎通が困難な場合は、表情や行動から本人の思いを汲み取り、職員間で話し合い把握に努めています。	利用時には意向の確認を行っているが、ほとんどの利用者が、入居前には法人内の他サービスを利用しており、自宅での生活等の事前情報は確認しやすい体制となっている。また、日々の交流の中で聞き取った要望については、職員間で確認や共有がしやすいよう、ケア記録にSOAP形式で分類されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査票の情報に基づき、職員間で情報を共有し、これまでの暮らしの把握に努めています。また、入居時に御家族様に本人の生活歴をお伺いしたり、これまでサービスを利用していたケアマネージャーからも情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動や体調をこまめに観察し、記録に残し情報共有しています。申し送りの際にも、その時々の変化や気づきをその都度話し合い、利用者様の状況を把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録などから本人の問題点やニーズ、御家族様の要望を挙げ、検討会議で話し合っています。状態変化のある際は、早めに解決できるよう御家族様や関係機関と話し合っています。	介護計画は基本的には3ヵ月毎に、計画作成担当者が多職種や家族からの意見をまとめて作成している。利用者の状態変化があった際は、その都度見直している。モニタリングは各利用者の担当職員が行っている。ケースによっては同一法人の理学療法士や作業療法士等にも見解を求める等の連携が図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には、体調の変化や印象に残る本人の発言、表情など記録しています。その情報を職員間で共有し、ケアプラン作成時に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化に応じ、浦田クリニックで24時間適切な医療を受けることができます。またICを行い、御家族様の意向もふまえ、本人に適した事業所をお勧めしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店での買い物や外食等、近隣地区の施設の利用を行い、地域とのつながりを維持している。また、地域の行事・祭りに参加している(現在はコロナ感染拡大防止の為、活動を自粛している)。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が浦田クリニックをかかりつけ医としています。随時、状態は報告しており、24時間体制で必要時には診察が受けられるようになっています。御家族様の希望で、以前からのかかりつけ医を希望される場合は、スムーズに受診できるような情報提供し、連携を図っています。	入居前から、協力医療機関である浦田クリニックをかかりつけ医としている利用者が多く、月2回の訪問診療に加え、24時間体制で診察や指示を受けられる体制となっている。かかりつけ医以外で受診が必要なケースについては、家族に対応を依頼しているが、ケースによっては職員が同行する支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルサインや体調の変化を速やかに報告や相談をしている。必要時、看護師が医師と連携し必要な受診や治療を受けられるよう支援しています。看護師とは必要時24時間体制で連絡が取れるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の必要情報を医療機関に提出しています。入院中も医療機関や御家族様と情報交換を行い、地域連携室と退院に向けた体制を作っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」及び「看取りに関する基本方針」についての説明を行い、理解を得ています。重度化した場合や、重度化が見込まれる場合は、できるだけ早い段階で御家族様と今後の方針を話し合っています。主治医と連携を図りながら支援しています。	基本的には看取りを行う方針としているが、より専門的な対応ができる、法人内の療養型施設に移ることを望むケースが多い状況となっている。重度化には対応する方針としているが、日常的に医療行為が必要になったケースについては、同様に対応可能な施設に繋いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の実施やマニュアルを作成し、緊急時への備えをしています。いつ何が起こっても冷静に対応できるように知識の習得に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害に備えて避難訓練を実施し、避難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を行っています。運営推進会議を通して自治会長の方に協力を呼び掛けています。また、緊急連絡網の配備、職員のメールアドレスを把握し、緊急招集できる体制をとっています。	年2回火災想定、年1回土砂災害想定での避難訓練を行っている。土砂災害時には、同法人の他拠点に避難する計画となっている。事業継続計画(BCP)は現在検討中であるが、災害時には、職員への一斉メール配信や敷地内にある同一法人の他事業所と連携が図れる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の接遇目標に沿い言葉遣いに注意し、敬意を払いケアに努めています。ケア時のプライバシーだけでなく、各種記録等の個人情報の扱ひも慎重に行っている。	職員が気持ちよく仕事を行うために、法人の接遇委員会が日々の目標を設定している。入浴や排泄の支援においては羞恥心に配慮したタオルをかける、利用者間のトラブルがあった際には、両者を尊重した対応を行う等に努め、日常的に指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定がしやすいように、こちらから選択肢を提示したり、本人の思いや希望を出しやすい環境作りに努めています。意思表示が十分にできない方からは、表情や仕草等から汲み取り、思いに近づくようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の過ごし方は、その時々利用者の体調やペースに合わせて柔軟に対応しています。毎日の業務の中でも、利用者の生活を優先できるよう話し合い支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛用の化粧品や身だしなみ用品を使用できるよう声かけや介助を行い、その人らしさを支援しています。現在はコロナ感染予防の為、訪問美容院を利用し好みのヘアスタイルにしています。爪切り、顔剃りも定期的に行い、整容に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を用いたり、出来る方には野菜カットや盛り付けを担当してもらっています。現在は、外食が難しい為、テイクアウトやオリジナルメニューの日を設け、食の楽しみを支援しています。	利用者に食事の盛り付けや食器洗い、食器拭き等の役割を担ってもらっている。食材には事業所の畑で作った野菜を用いることもある。年3回オリジナルメニューの日を設け、季節を感じる冷やし中華や鍋、おやつ作り等を行っている。新型コロナウイルス感染症流行禍前には、家族との外食ツアーも行ってた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスの良い献立で、グルテン・カゼインフリー食を提供し、個人の状態に応じた形態、量、時間、食器の工夫等、柔軟に対応しています。毎日の食事量を記録し、状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、できる限り自身でもらっているが、磨き残しなどある場合は介助を行っています。口腔内の状態観察を行い、個人に合った器具を使用しています。必要時は、歯科衛生士の指導を受ける事ができます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンの把握に努めています。尿意を訴えない方も表情や動きで誘導し、トイレで排泄できるよう支援しています。	支援が必要な利用者の排泄間隔は、チェック表に記録して確認し、トイレで排泄できるよう対応している。利用者の状態等に応じて、夜間はポータブルトイレを設置する等、環境整備を行っている。また、腸内環境を整える効果のあるグルテン、カゼインフリー食を食材に用い、極力下剤を使わない対応が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	グルテン・カゼインフリー食を提供しており、おやつ時には豆乳を提供し、他にも様々な飲料を取り揃え、好みや状態に合わせて提供しています。また、運動療法機器ニューステップや歩行訓練を取り入れ、体を動かす機会を多く取って便秘予防をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、本人の希望やタイミングに合わせて入浴しています。入浴剤を使用したり、季節に応じゆず湯にしたりとリラックスした時間が過ごせるよう工夫しています。	基本的には、利用者には週2回、午前中に入浴してもらっている。希望があれば週3回の対応や、気分が向かない方には、曜日の変更や午後から入浴する等、柔軟に対応している。また、入浴剤やゆず湯等入浴を楽しむことができる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や体力、生活リズムに合わせて休息をとっています。日中の運動や散歩など活動量を増やし、生活リズムを整え夜間安眠できるよう支援しています。また、不眠がちの方は、一緒に過ごしアロマオイルの活用も取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報が個人毎のファイルに綴じてあり、いつでも閲覧できるようになっています。薬の目的や副作用等の把握、理解に努めています。個人の状態に応じた薬の形状や服薬介助の工夫をしています。また、症状の観察、変化に注視し、異常があった場合は看護師に報告し、迅速な対応を心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野を活かした役割分担を行い、喜びや生きがいにつなげています。希望があれば好みの嗜好品を出したりして楽しみが持てるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望はあるものの、コロナ感染予防から、買い物、ドライブ、外食等は全て中止しています。近所への散歩や外気浴程度しか行えておらず、我慢を強いている状況です。感染状況を見つつ、外出支援を再開していく予定です。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩したり、中庭でお茶をしたりする機会をつくっている。時期によっては事業所の畑作業や草むしりを行うこともある。新型コロナウイルス感染症の影響で現在は自粛しているが、買い物や黒部牧場等へのドライブ、外食に行く機会をつくっていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と話し合い、お小遣いを預かり、事業所で管理しています。現在は自粛中だが、買い物等必要な時に支払できるよう支援しています。自身で現金を管理している方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から手紙が届いたり、電話も希望により使用でき取り次いだりしています。個人で携帯電話を所持している方もおり、自由に使用しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度、日差しにも配慮し、24時間快適に過ごしていただけるようにしています。また、フロアの掲示板や壁に季節の花を飾ったり、穏やかな音楽を流し、心地よい空間作りに努めています。	毎日午後には業者による清掃に加え、適宜職員でも掃除を行っており、清潔が保たれている。共用空間の装飾は季節感が感じられる程度に抑え、落ち着ける空間づくりに配慮されている。また、放送設備があり、利用者が日課や食事の案内を行ったり、利用者の好む音楽を流したりでき、集いの場としての取組が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、テーブル席とソファを配置しています。庭に椅子を置き外気浴を楽しんだりしています。畳コーナーもあり、好みの場所で目的に応じた利用を勧めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や御家族様の意向を尊重し自由にレイアウトをしてもらっています。馴染みの家具で穏やかに過ごせる空間作りに努めています。飾り物や作品を飾ったりプライベートを保てるようにすると共に、安全面でも本人に適した工夫をしています。	ベッド、洗面台以外は、意向に応じて、自身で作った机等の家具や、テレビ等の電化製品を持ち込んでもらっている。趣味や日課を居室でも行える配置の工夫や、1日の予定を掲示して、利用者自身でも確認できる環境づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており廊下やフロアには手すりがついています。各所に見やすい表示があり、迷わないようになっています。また、夜間には足元灯で安全確保しており、利用者様のレベルに応じた環境作りをしています。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームちょうろく

作成日: 令和 4年 1月 24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	面会について コロナ禍でも安心して面会できるよう工夫が必要である。	安心して面会ができるよう設備を整えていく。	法人側と相談し、オンライン面会の導入をすすめていく。	6 ヶ月
2	4	コロナ禍で運営推進会議は開催できていないが、ご家族様、市役所、自治会長の意見を聞いて運営に反映出来ていなかった。 また、ご家族様全員に運営会議の内容が周知されていなかった。	・運営推進会議を充実した会議になるようにしていく。	・定期的に電話や訪問しご家族様、市役所、自治会長の意見を聞く。 ・お便りに運営推進会議の内容を載せていく。	2 ヶ月
3	35	災害対策について 地域との協力体制をしっかりと整えていく必要がある。また、非常災害時の食料や備品など必要な物品をリストアップしておく必要がある。	・訓練や災害時は地域住民の方にも協力していただけよう努める。 ・備品のリスト表を作成し、事業所独自で物品を確保する。	・上野方消防団にも関わってもらう。 ・災害時、自治会長のメールにも緊急メールを送信させてもらえるようお願いする。 ・地域住民に訓練の様子を見に来てもらう。 ・法人側と相談し、備品を購入していく。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。